



広大な白菜畑

流れの
先に

ウォータースタンド ～霞ヶ浦用水の良さを身近に～



茨城県西南部の地域は、耕地のうち畑地が52%を占める一大畑地帯でかつ優良農業地域である反面、平年降水量は約1,200mmと少なく、台地上に発達した畑地は不安定な生産体系となっていました。さらに、しばしば用水不足を生じるなどの悪条件から土地生産性が低い状態にありました。また、首都圏地域としての開発に備え、都市用水を確保する必要も生じていました。

これらの水を安定して供給するために作られた施設が「霞ヶ浦用水」です。今回は、霞ヶ浦用水の農業用水を給水スタンドとして利用する珍しい「ウォータースタンド」について、霞ヶ浦用水土地改良区の方にお話を伺いました。

あっという間にタンクは一杯に

ウォータースタンドは、末端かんがい施設が未整備の畑地でも霞ヶ浦用水を給水できる施設で、霞ヶ浦用水地区内13市町の27箇所で使用されています。

その設置経緯は、水資源機構の基幹線の通水後、平成20年度に霞ヶ浦国営事業も完了し、末端の畑地等への用水施設の整備が本格化したので、霞ヶ浦用水の良さを身近に実感してもらい、用水利用をさらに向上させようと設置されました。

霞ヶ浦用水土地改良区の増山管理課長によると、利用方法はとても簡単だと言います。

「スタンドの柵を鍵で開け、給水の元栓を開けてバルブを操作すれば水が出る仕組みで、霞ヶ浦から汲み上げられた水の圧力であっという間にタンクが一杯になります。いつでも水を使いたい時に500L（お風呂約2杯分）の給水が約1分間でできることが一番のPRポイントで、料金も1,000Lで50円と大変お得です。」

農業生産の向上に貢献

改良区管理課の小木主任が、ウォータースタンドの利用目的の多様性について説明してくれました。

「ウォータースタンドで給水された水は、車で畑まで運ばれます。畑では干ばつや少雨時に使用することで計画的な生産が可能になりましたし、芝や梨の防除※などにも利用されています。」



ウォータースタンドからの給水



ウォータースタンドの水によるかん水

ウォータースタンドを利用して生産される農産物も豊富で、梨などの果樹、レタスや白菜などの葉物野菜などがあるそうです。

※ 防除…農作物の病虫害を防ぎ駆除すること。

さらなる用水の利用増を目指して

今後の目標について、改良区のお二人は、「もっと多くの皆さんにウォータースタンドを知ってもらい、身近に用水を利用してほしいですね。我々の地域は、農業を志す後継の若者が結構いるので、若い力にも期待しながら、霞ヶ浦用水地域が維持・発展していければと思います。そのため、ウォータースタンドから本格的な末端かんがい施設が整備されるよう茨城県とともに農家の皆さんに働きかけを続けていま

す。」と話してくれました。

取材の最後に、改良区の基幹施設である国営施設の管理現場を案内していただきました。たわわに実る梨畑を通り、着いたのは遠く霞ヶ浦から筑波山を越えた先にある東山田調整池と揚水機場。満々と水をたたえた池の畔に整備されたポンプ場の周辺には、収穫を待ちわびる黄金色の稲穂のじゅうたん。霞ヶ浦からの水の恵みを実感しながら、帰路につきました。



東山田調整池と揚水機場（古河市）



筑波山の裾野に広がる田園地帯と小貝川水管橋



霞ヶ浦用水土地改良区 管理課 増山課長（右）と小木主任（左）